特殊研　C－40

プロジェクト研究報告書

通常学級において留意して指導することとなっている児童生徒に対する指導および支援体制の充実・整備等に関する研究

（平成11年度～平成13年度）

平成14年3月

独立行政法人
国立特殊教育総合研究所

は　じ　め　に

本報告書は、平成 11 年度～平成 13 年度にわたって実施したプロジェクト研究「通常学級において留意して指導することとなっている児童生徒に対する指導および支援体制の充実・整備等に関する研究」の成果をまとめたものです。

我が国の政治、経済、行政あるいは教育の分野におけるあり方が大きく変わりつつあるなかで、特殊教育の分野においてもこのような動きを背景に、先般平成 13 年（2001）に「21 世紀の特殊教育の在り方＜一人一人のニーズに応じた特別な支援の在り方について＞」の最終報告が出され、障害者が障害のない者と同等に生活し活動する社会を目指すという「ノーマライゼーション」の理念に立脚した我が国の特殊教育に関する基本的な考え方が示されたところです。

さて、「ノーマライゼーション」の理念は既に昭和 57 年（1982）～平成 4 年（1992）の「障害者施策に関する長期計画」に盛り込まれ、さらに平成 5 年（1993）「障害者の施策に関する新長期計画」また、平成 8 年（1996）「障害者プラン～ノーマライゼーション 7 か年計画～」の基本理念として明文化されているように、国際的な動向を反映し我が国全体の障害者施策における基軸として綿々と継続している考え方です。そして、特殊教育の現場においても、積極的にこのような大きな方向性を認識しつつ、教育実践、教育活動が行われてきたところです。このような背景を踏まえながら、本研究は開始されました。

本研究の骨子は、通常学級における障害がある子どもを巡って、どのような実際的な教育的支援が必要とされるのか、について明らかにしようとするものです。そのためには、指導者側の「特殊教育」「通常教育」の枠を越えた連携や協力が必須であることは言うまでもなく、さらにこれらは学校内で完結するものでもありません。したがって本研究では、保護者や他の機関等の関連も含めた視野も取り入れて研究を進めてきました。

さらに、教育関係者個々が内容に関して、自分自身のこととして実感的に捉えられるように、①なるべく実践現場の生々しい状況（工夫や課題）を研究に反映する、②基本的理念を今一度明確化し実践現場の状況との関連性を探る、という方向性を強調しました。

この成果については、未だ課題も数多く残されていますが、障害がある子どもの教育という範疇だけではなく教育全体に対して少しでも役に立つことができれば幸いです。

また、今後の研究の進展のためにも、是非忌憚のないご意見をいただければと願うものです。

終わりに、本研究を進めるに当たりご協力をいただいた研究協力者、研究協力機関の方々に対し、心より感謝の意を表する次第です。

平 成 14 年 3 月

独立行政法人
国立特殊教育総合研究所　理事長
細　村　迪　夫

研　究　の　組　織

研究代表者

笹　本　　健	（肢体不自由教育研究部）	

研究分担者

大　内　　進	（視覚障害教育研究部）	
澤　田　真　弓	（視覚障害教育研究部）	
小　林　倫　代	（聴覚・言語障害教育研究部）	
久保山　茂　樹	（聴覚・言語障害教育研究部）	
佐　藤　正　幸	（聴覚・言語障害教育研究部）	
松　村　勘　由	（聴覚・言語障害教育研究部）	
牧　野　泰　美	（聴覚・言語障害教育研究部）	
落　合　俊　郎	（知的障害教育研究部）	平成 11 年度
石　塚　謙　二	（知的障害教育研究部）	平成 11 年度
柘　植　雅　義	（知的障害教育研究部）	平成 11 年度－12 年度
干　川　　隆	（知的障害教育研究部）	平成 11 年度
肥　後　祥　治	（知的障害教育研究部）	平成 11 年度－12 年度
滝　坂　信　一	（肢体不自由教育研究部）	
當　島　茂　登	（肢体不自由教育研究部）	
徳　永　　豊	（肢体不自由教育研究部）	
	（知的障害教育研究部）	平成 13 年度より
花　輪　敏　男	（情緒障害教育研究部）	平成 12 年度－13 年度

研究協力者

伊　尻　正　一	（西東京市立田無小学校）	
河　野　哲　也	（防衛大学校）	
小　磯　敦　子	（横須賀市立森崎小学校）	平成 13 年度
木　村　光　男	（横浜市立丸山台小学校）	平成 12 年度－13 年度
田　嶋　恵美子	（世田谷区立九品仏小学校）	平成 12 年度－13 年度
戸　田　淑　子	（相模原市橋本小学校）	
豊　田　弘　巳	（町田市立鶴川第三小学校）	
長　塚　松　美	（横須賀市立森崎小学校）	平成 12 年度
西　田　邦　彦	（横須賀市立森崎小学校）	平成 11 年度

研究協力校

川崎市立西梶が谷小学校	平成 11 年度－13 年度
北区立王子小学校	平成 11 年度－13 年度
名瀬市立朝日中学校	平成 11 年度－13 年度
平塚市立崇善小学校	平成 11 年度－12 年度
平塚市立城島小学校	平成 13 年度
横須賀市立浦賀小学校	平成 11 年度
横須賀市立森崎小学校	平成 11 年度－13 年度
横浜市立丸山台小学校	平成 12 年度－13 年度

目　　次

第Ⅰ章　研究の概要

1．研究の目的 …… 1

2．研究の方法・内容 …… 1

3．研究の経緯 …… 1

第Ⅱ章　現状の認識

1．認識への導入 …… 5

― 一通の投稿から ―

2．ノーマライゼーションをはばむ考え方について …… 9

― 連携・協力の本質にあるもの ―

3．通常教育教員の「特殊教育」に対する意識調査 …… 17

― 連携・協力を目指した特殊教育からのアプローチの糸口 ―

第Ⅲ章　現状の改善に向けて

1．学校体制・校内活動

・通常の学級で学ぶ障害のある子どもへの教育・支援のあり方について …… 33

― 校内体制・学級経営・授業の工夫 ―

・個別的な配慮と対応を大切にした校内体制作りの取り組み …… 45

・校内における特別支援活動の試み …… 53

― 個別的学習支援、個別的行動支援、および授業における担任による個別的支援 ―

・自閉症児を取り入れた小学校での取り組み …… 65

・通常学級から転校して特殊学級で学ぶ運動と学習に困難さのある児童への支援体制について …… 73

― 教育相談の観点から ―

・通常の小学校在籍中に失明した児童への対応と支援 …… 83

― 教育相談の観点から ―

2．授業での取り組み

・通常の学級における授業形態に関する研究 …… 89

・通級児のための障害理解授業から学校全体のための総合的な学習の時間へ …… 97

・通常学級における聴覚障害の理解・啓発活動について …… 105

3．地域を視野に入れて

・教育ボランティアによる高機能自閉症児への援助 …… 111

・地域の特性を活かした児童・生徒及び教師への支援形態 …… 117

― 奈良県及び京都市の視覚障害教育の事例を通して ―

・肢体不自由特殊学級に在籍しているＣさんとその保護者の活動を通して …… 123

4．子どもを巡る人々の思い

・小学校通常学級における教育活動の営み …… 129

― 自閉症といわれる一人の児童の６年間の学校生活をめぐって ―